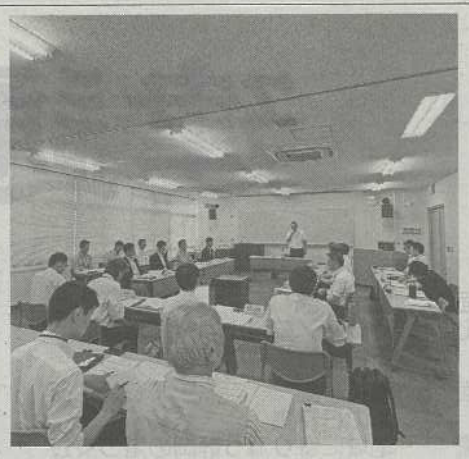
東部

沼津支局
〒410-0036
沼津市平町18-20
川口第二ビル2階
電　話
055(962)5167
FAX
055(951)6965

三島市など
3市2町でごみ処理広域化
候補地検討会を開催



委員会で活発な意見が交わされる

三島市・裾野市・熱海市・函南町・長泉町の3市2町は14日、広域一般廃棄物処理施設候補地検討会を開催し、2025年度中の候補地選定に向けて選定区準案や評価項目案について協議した。同検討会は25年度中に候補地の評価検討結果を取りまとめる。各市町村の広域化へ参加への判断は26年度中に行う見込み。

新施設の稼働開始は36年度を目標としている。最短を想定した場合、27～28年度にかけて2カ年での基本計画・基本設計の実施を予定しており、環境影響評価（環境アセスメント）や事業者選定を行った後、32年度から実施設計と建設工事を行う。

施設は1日当たり300㌧程度のごみ処理を行うことができる規模を見込む。建設候補地の選定基準には、面積が約2㌶で公募または市町が所有する公有地から選定する。

18日には各自治体の副市長が集まり、ごみ処理広域化検討協議会を開催し、候補地の検討や計画策定に向けた協議をさらに深める。

富士宮市
2小学校の長寿命化工事
富士見小は26年度以降着手

現在の富士見小学校

富士宮市は、富士根南小学校（小泉1675）と富士見小学校（富士見ケ丘1794）の長寿命化工事に着手する。富士根南小は2027年度以降、富士見小は26年度以降に工事を行う予定。

富士根南小では、教室棟・西（鉄筋コンクリート造3階建て延べ1853平方㍍）と、教室棟・中（鉄筋コンクリート造3階建て延べ617平方㍍）を対象に屋上防水と外壁塗装を施す。

富士見小では、普通教室棟と管理棟において、屋上防水・外壁塗装の改修の他、受水槽・ポンプと自動火災報知設備の更新を行う。建物の規模は、鉄筋コンクリート造3階建て延べ3908平方㍍。

ナカノ工房（静岡市葵区）が設計を担当した。

沼津土木
西浦河内川の護岸整備
設計業務に着手

静岡県沼津土木事務所は、沼津市西浦河内地内の西浦河内川河川災害対策で、護岸整備を計画、設計業務に着手した。年度内に成果を得る。工事発注は未定。

場所は市道0260号線の山田橋下流右岸。延長は10㍍。

設計は小林技建興業（御殿場市）が担当。

Interview

富士設計（富士宮市）
代表取締役社長
小野寺（おのでら） 敦嗣（あつし） 氏

人材育成と担い手確保に注力
経営者として会社改革を推進

2022年11月に代表取締役社長に就任した小野寺敦嗣氏の下、富士設計（富士宮市）では積極的な会社改革を進めている。同氏は高校卒業後、県外大学の外国語学部に進学。卒業後に家業である同社に入社し、建設の知識も技術もない状態からの建設コンサルタントの世界に飛び込んだ。「土木測量・設計など業務に関して知識が乏しい分、職場環境の改善や人材不足解消など経営者の立場から改革を進めたい」と意気込む同氏に話を聞いた。

（沼津支局＝佐藤巧海）

―社長就任から約3年を迎えて思うことは。

「会社経営において、戦国武将の武田信玄の言葉である『人は城』と身をもって痛感した約3年だった。経営者として社員が働きがいある会社を目指し、職場環境改善や人材育成、担い手確保を中心に改革を進めてきた。自身の役割は会社経営の旗振り役として方向性を示していくことだと自負している」

―4月から新社屋での業務を開始した。

「旧社屋の老朽化もそうだが、社員が建設DXを意識した社屋でのびのびと業務に励んでほしいとの思いがあった。また富士山麓にある建設コンサルタントの使命として、富士山に起因した土石流や火山噴火、南海トラフ地震など想定される災害時に、地域防災や復旧業務に貢献できるように体制を整えたかったこともある。未来の建設コンサルタントを目指す若者が、わが社の新社屋を見て入社してきてくれたらうれしい」

―働き方改革を受けて、生産性を高める取り組みが求められている。

「約10年前は、社員の年間休日数は107日だった。しかし現在、ワークライフバランスを重視している社員や入職が多い傾向にあるため、自身が社長に就任してから年間休日数を120日と拡大した。しかし業務量は変わらない。そのためドローンやレーザースキャナーなど、最新技術を積極的に取り入れることにより、業務の効率的を図り、変わらない業務量で休日数増加を実現した」

―人材育成の面で工夫していることは。

「私の提案で昨年度から月に1回程度全体研修を行っている。部署が異なると日頃どのような業務を行っているかわからない部分がある。そのため各部テーマを決め、全体に発表する機会を設けた。普段気付かない視点やジェネレーションギャップ、またクライアントへの提案能力の向上、意見が採用された時のモチベーションアップなど、会社にとって良い風を与えている」

―若者人材など担い手確保に向け強化している取り組みは。

「地域のまちづくりを支える企業として担い手確保は重点課題である。入社し、建設コンサルタントの認知度は低い傾向にあると感じた。そのためインターンシップ・出前授業の開催や就活イベントの出展、会社PR動画・パンフレットの作成など、わが社のみならず建設コンサルタントの魅力を少しでも知ってほしいと取り組んでいる。これからも活動を推進していきたい」

【略歴】富士宮市出身・在住。2016年富士設計入社、22年11月に代表取締役に就任。1992年生まれ。